

SHONAN MAIL

しょうなんメール
2017.08
Vol.125



救急医療医師との交流講座
就任医師ごあいさつ
オンコロジーセンターからのお知らせ
日本乳腺甲状腺超音波医学会
第2回 マタニティZazenのお知らせ
院内七夕飾り付け
ロジュマン祭り

鎌倉花火大会(材木座海岸) 撮影:医事課 内海貴大

湘南鎌倉総合病院

病院広報誌

8年後、医療の何が変わるでしょう？ 我々は、何に備えておくべきでしょう？

湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科
部長 山上 浩

「鎌倉っていいところですね！」福井の田舎で育った私が湘南ER(湘南鎌倉総合病院救急外来)で救急医として勤務して早11年が経ちました。救急医といえばドラマ『コード・ブルー』の山Pをイメージする方が多いでしょうか。「患者さんを救命する！」という使命感は山Pにも、もちろん負けませんが、湘南ERの救急医は救命だけではなく「いつでも どこでも 誰にでも 最善を尽くす」をスローガンに日々診療をしています。

重症のケガや、突然生死に関わる病気になって来院される方を速やかに診断し治療することは勿論のこと、ノドが痛い、頭が痛い、おなかが痛いなどといった日常的な症状や、

血が止まらないケガ、頭も胸もおなかもぶつけたケガ、子供がおもちゃを飲んだかもしれない、鼻にBB弾を入れてしまった、海で何かに刺されて激痛があるなど、どこに受診をしたらいいのか判断が難しい訴えにも対処し、必要に応じて専門診療科と連携し最適な医療を提供できるよう心がけています。

しかし数年前から、ERで働くだけでは限界があることに気付きました。ERは非日常的な出来事の連続です。突然大切なご家族が重い病気になった時「人工呼吸器はつけますか？蘇生行為は？」と生命に関わる極めて重大な決断をその場で迫られます。私の少ない経験ですが、その場で決断ができるご家族は1割を満たしません。また我々が求めている薬歴（どんな薬を飲んでいるか）などの情報を得るために四苦八苦して情報収集にあたることも稀ではなく、目の前に患者さんがいるのに残念ながら最善最速の医療を提供できないこともあります。

今、救急医としてできることは、病院で患者さんを待つことではなく「市民の皆様と対話し、何が必要なのかを一緒に考えていくこと」だと気付き交流講座を開くこととしました。人は必ず老い、必ず最期を迎えます。8年後に控えた2025年問題。この国で何が起きて、医療の何が変わるのでしょうか？国は喫緊の課題として様々な施策を講じていますが、国に頼るだけではこの難題を乗り越えることは決してできません。講座では我々が直面している問題点を共有し、今日からできる備えを紹介していきます。

医療講座といっても講堂で私一人がお話しするのではなく、今後は公民館のような場所でテーブルを囲んで皆様の意見を聞きながら、一緒に考えていく場になることを願っています。お気軽にお声掛けください。

～次回の開催予定～

★10/18(水) 鎌倉市家族介護教室

- ・場所 玉縄行政センター
鎌倉市家族介護教室
- ・対象 鎌倉市内在住の方
- ・申込み 10/2～
地域包括支援センター湘南鎌倉
(0467-41-4013) まで

